



2025年10月10日

各 位

会 社 名 株式会社ヤマザワ
代表者名 代表取締役社長 古山 利昭
(コード番号 9993 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役管理本部長 工藤 和久
(TEL. 023-631-2211)

2026年2月期第2四半期（中間期）連結業績予想と実績の差異に関するお知らせ

当社は、2026年2月期中間連結会計期間において下記のとおり2025年4月14日の「2025年2月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」で公表いたしました2026年2月期の第2四半期（中間期）の連結業績予想と本日公表の実績との差異について、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026年2月期第2四半期（中間期）連結業績予想値と実績の差異

第2四半期（中間期）連結業績予想値と実績値との差異（2025年3月1日～2025年8月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1株当たり 中間純利益
前回発表予想 (A)	百万円 51,400	百万円 220	百万円 220	百万円 70	円 銭 6.49
今回発表実績 (B)	53,083	595	650	755	70.03
増減額 (B-A)	1,683	375	430	685	
増減率 (%)	3.3	170.5	195.5	978.6	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2025年2月期第2四半期)	50,958	△682	△275	△1,056	△97.99

2. 実績との差異の理由

2026年2月期中間期の業績は、主にスーパーマーケット事業において好調に推移したことから、前回の公表予想を上回りました。

売上高につきましては、今年度からスタートしております第4次中期経営計画の重点課題でもあります「早期黒字化と安定収益の確保」を達成するための収益力強化の諸施策に取り組んだ結果、客数、客単価ともに好調に推移し、当初の予想を上回りました。

利益面につきましては、店舗における値下廃棄率の削減や、前年度から電力会社を変更したことによる光熱費の削減、オペレーション改革による生産性の向上等、全社を挙げてコスト削減に取

り組んだ結果、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する中間純利益ともに当初の予想を上回る結果となりました。

なお、2025年9月29日の「会社分割（簡易吸収分割）に関するお知らせ」で公表したとおり、当社は本吸収分割の対価として2,600百万円の交付を受ける予定となっており、この一部を特別利益として計上する予定でございますが、本吸収分割に伴い実際に承継される金額は、効力発生日（2025年12月1日）までの間に生じた増減を加味したうえで確定するため、現時点での影響額は未定となっております。よって通期の連結業績予想につきましては不確定要素の影響が大きいため、当初の計画を据え置き、詳細が分かり次第速やかにお知らせすることといたします。

（注）上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上